

# ソ 同 盟 の 獨 立 採 算 制

——スターリン論文に関連して——

岩 尾 裕 純

## ま え が き

マルクス・エンゲルスは、資本家のいない未来の社会では、計算と管理がきわめて重要であるといった。

プロレタリアートは民主主義をたたかいとったのち、いっさいの生産手段をかれらの國家の手中にあつめ、生産力をできるかぎりすみやかに發展させる。そのためには社会的労働の配分、生産物の共同的消費と個人的消費についてのくわしい計算が必要であること。したがって簿記がますます重要となること等々……。これらはかれらが未来の社会についてふれたところでは、つねにくりかえしていることである。それはとくに引用するまでもない。

ついでレーニンは、十月革命の直後、社会主義建設をいよいよ日程にのせるにあたって、つぎのようにいっている。

「われわれの經濟上および政治上の重心はかわった。これまで第一義的だったものは、收奪者を直接に收奪することだった。いまや、すでに資本家から收奪した經濟やそのほかすべての經濟のなかで、計算と管理を組織することが第一義的なものになった<sup>1)</sup>。」

「決定的なことは、生産物の生産と分配についてきびしい全國民的な計算と管理を組織することである。……これなくしては社会主義を實施するうえでのたいせつな物質的條件、すなわち全國民的な規模で労働生産性をたかめるといふことは問題となりえない<sup>2)</sup>。」

社会主義の基本的な課題の1つは、もはや生産力を發展させえなくなった資本主義にかわって、それよりもはるかにかぎりなく生産力を發展させることである。そのためには社会に巨大な蓄積が必要であり、蓄積をおこすためには精密な計算と管理を欠くことはできない。

このように、マルクス・エンゲルスをはじめレーニンがのべた社会主義經濟の計算と管理は、具體的にはソ同盟では國家企業の本ズラスチョートという型態となつて

あらわれた。計算と管理という一般的な問題は、特殊的に本ズラスチョートという型態で解決されるにいたつた。

ところがこの本ズラスチョートは、資本主義社會の私的企業と外形的には、きをめて似たかたちをもっている。ソ同盟の國家企業は、本質的には、協同し合同した労働者が、すべての労働者の共有財産である生産手段をつかつて、集團的にはたらくという關係にある。にもかかわず、その運營の面で國家企業は、一定の貨幣表示をうけた生産手段と一定量の貨幣をゆだねられ、貨幣型態での収益を求めて、行動するという形式をとっている<sup>3)</sup>。そのためとくに戦後では、「變容された價值法則」の問題とともに、いろいろと論議される材料にもなつた。

この問題をはっきりさせるためには、第1に本ズラスチョートの意味を、じっさいにおこなわれていることに基ついて、確かめることが必要であり、また本ズラスチョートの展開過程をとりだしてみることも必要である。第2には、本ズラスチョートと資本主義社會の私的企業の管理のちがいをしめすことが重要であろう。小論では第1の點だけを、さいきんのスターリン論文にのべられてある内容をとりあげながら、できるだけかんたんにのべてみたい。

## I ホズラスチョートの展開

ソ同盟における社会主義經濟と管理は、革命いらいいくたびかかわつた。

### (1) 革命直後の型態—労働者による統制(管理)

十月革命ののち、各企業の生産と分配のための計算と管理は、労働者の統制のもとで資本家によつておこなわれた。この統制は、すでに革命の直前、資本家の生産サポタージュを監視するためにおこなわれていた「労働者の統制」をいっそうつよめたものだった。革命直前の「労働者の統制」が、革命後いっそうつよめられることにより、「労働者による管理」に轉化するにいたつた。權力機關の委任または指示によつて、各工場は、労働者

1) 「ソヴェト政權當面の任務」1918年3月、邦譯社会書房刊レーニン二卷選集9分册189p

2) 同上187p

3) 拙稿、「社会主義社會の國家企業」理論社刊資本論の解明第4分册参照。

の管理機關の指導のもとに、自主的に生産と分配の権限をもつ生産=消費のコンミュンとされた。労働者の管理機關は、企業の生産高と原價をさだめ、資本家による計算と管理を監視した。すべての書類を監査し、商業の機密を資本家からうばった。これは資本家の行動を制限するとともに、その經驗を活かし、その經驗を学ぶことだった。自主的に生産と分配を計算し、管理し、労働を節約し、その生産性をたかめ、それによって労働日をちじめるためには、權力をにぎったばかりの労働者には、自分の監督のもとで資本家をして運営させることが唯一の方法であった。これがホズラスチョートの原型であった。ホズラスチョートは、各企業が自主性をもち、労働者の指導のもとに資本家が採算的に計算と管理をやるという型態からはじまった。

#### (2) 内亂と干渉の時期—企業の採算制の否定。

反革命の内亂と外國の軍事干渉が國內を非常事態におちいらしてから、すべての經濟はこの軍事行動にささげられた。各企業單位の自主的な計算と管理はやむなく否定された。すべての生産と分配のための計算と管理は、戦争をおこのうために中央機關に集中された。採算制は否定され、全生産は軍事目的に動員されるにいたった。

#### (3) 復興期—商業採算制(コンメルチェスキイ・ラスチョート)

内亂と干渉ののち、計算と管理の型態はホズラスチョートをとることが宣言された。ホズラスチョートがはじめて法文化されたのは、1921年8月8日附の「亞麻工場諸グループの分割とその管理秩序についての條令」であった。労働生産性をたかめて、國家企業の収益性をたかめることが、計算と管理の目的とされた。だが復興期の特殊な条件のために、ホズラスチョートは特殊な型態をとらざるをえなかった。荒れはてて自給化した農村と都市をむすびつけ、工業製品の販路を確保し、労働者と農民の同盟を確立するために、この時期での社會主義建設のもっとも重要なしごとは、商業を發展させることであった。したがって一方では、私的商業と個人資本の活動を公然とみとめ、他方で國家トラストは、利潤を目的として活動し、計算と管理にブルジョア専門家を起用した。生産の合理化と商業的活動、インフレーションのもとでの賣買利潤の確保にトラストの活動の重點がおかされた。

その計算と管理は、本質的にはホズラスチョートであった。だが形式的にはコンメルチェスキイ・ラスチョートという型態であった。それは商業の自由がゆるさされている条件のもとでのホズラスチョートの型態であった。

#### (4) 社會主義工業化期

##### (A) 第一次五ヵ年計畫直前—商業採算制の修正。

コンメルチェスキイ・ラスチョートの展開のうちに復興がおわり、ソ同盟は重工業と機械工業の建設にうつった。そして工業生産の分野では80%以上が國家企業でつくられ、卸賣商業では95%が國家の手によっておこなわれるにいたった。國民經濟は國家計畫によって全面的にうごかされるようになった。それにおうじて、國家企業の計算と管理の型態はかわった。商業的活動にかわって、社會主義の土台をつくる國家計畫の遂行が、トラストの活動の重點となった。そして計算と管理は、國家計畫の遂行を商業採算的に遂行するためのものとなった。1927年のトラスト法の修正は、その明確な表現であった。そしてこれが完全なホズラスチョートの型態をとる準備となった。通貨の安定はその準備を助ける条件であった。

(B) 第一次五ヵ年計畫期—企業ホズラスチョートの確立。1929年は、ソ同盟の社會主義經濟が、巨大な轉換にうつった年だった。重工業建設の蓄積を國內で確保する見とおしは確立し、コルホーズ化の出發がはじまった。世界はじめての五ヵ年計畫も遂行にうつされた。同時に、工業全部門を世界でもつともあたらしい技術で再裝備することがはじまった。この時期の社會主義經濟の重點は、復興の重點が商業であったのちがって、いかに五ヵ年計畫を遂行し、いかに技術を工業生産にとりいれるかであった。

それにおうじて計算と管理の型態はすっかりかわった。

第1に計算と管理の單位は、生産の技術的な單位である企業にうつされた。

第2に國家計畫と工場内の計畫とを一致させる方式がとられた。

第3に企業は商業利潤ではなく、計畫を遂行することによって、生産性をたかめ、収益をあげることが任務とされた。

したがって企業は國家計畫におうじて、一定量の固定資産と流動資産をゆだねられ、獨立した精密な收支計算をおこなうことになった。計畫にもとづいて消費した労働量・あらたにつけくわえた労働量のくわしい計算をおこなうことになった。

ついで信用改革の實施とともに、決済はすべて國立銀行を通じておこなわせ、計畫の遂行を國立銀行が貨幣面から統制する方式をとることになった。

収益の處分については、税制改革により取引税のみの單一税制をしき、國家豫算への控除、企業内留保、企業長基金への分割制が確立された。いかに計畫におうじて技術をとりにいれ、生産性をたかめ、そして蓄積の源泉である収益を自主的に増加さすかが、計算と管理の課題となった。ホズラスチョートはここに確立するにいたった。

(C) 第二次五ヵ年計畫—工場内ホズラスチョート(職場・班)。第一次五ヵ年計畫の展開のなかで、工業の機械化は發展し、工場内に巨大な獨立した職場があらわれるにいたった。そのため工場内の計畫をさらに精密にし、工場内の各部門のしごとの質をたかめるため、1931年から職場ホズラスチョートが求められつけくわえられるにいたった。職場ホズラスチョートは、國立銀行に口座はもたない。しかし企業内で相對的に獨立した經營單位としての地位をあたえられ、企業の管理部を通じて交互計算をおこなうことになった。その具體的方法は、戦後いま定式化の過程にある。

ついで五ヵ年計畫の成功による生活水準のたかまりと、労働者のなかでの社會主義意識の確立は、ソ同盟全體にわたるスタハノフ運動と社會主義競争を展開させるにいたった。この運動を土台として、班ホズラスチョートがあらたに展開するにいたった。職場ホズラスチョートはいわば義務的な制度であり、法令でさだめられたものであった。しかし班ホズラスチョートは、生産性の向上と生産物の質の改良のための自由意思による大衆運動であった。おくれたものをひきあげるという社會主義競争の高度な型態であった。この運動は、この時期における社會主義經濟の重點が、かつての技術をとりいれるという目標からすすんで、いかに技術をこなすカードル(要員)を養成するかにかわっていたことにおうじている。

(5) 共產主義への漸次的移行期—リーチヌイ・スチョート(個人別計算)

第二次大戦中、ホズラスチョートは停止されていた。戦後ふたたびホズラスチョートが復活されるとともに、さらにあたらしい型態がつけくわえられるにいたった。これは第二次五ヵ年計畫の時期に發展しはじめた職場、班のホズラスチョートをいっそうつよめるとともに、リーチヌイ・スチョート(個人別計算)をおこなうことであつた。大衆運動である班ホズラスチョートのなかで、さらに個人別計算をおこなうことであつた。いうまでもなくこれは戦後の嵐のような社會主義競争の展開と、それを刺激するための累進的平均ノルマの制定を前提とし、これに寄與するものであつた。この目的は、全労働者を技師、技手の水準にたかめ、肉體労働と精神労働の差異をなくし、生産性をかぎりなくたかめるための社會主義競争をたすけ、それを刺激することにあつた。これはいまソ同盟全土にすみやかな展開を見ようとしている。

この制度の一般化とともに、かつてホズラスチョートがもっていた資本家企業に似た型が、しだいに消えさうしている。これによって各人が社會にあたえた労働量はできるだけ明確化するとともに、すすんだ労働者の水

準においつかず援助をあたえることができるようになった。ホズラスチョートが労働生産性をたかめ、収益を増大させるための計算と管理の型態であることはかわりがない。しかしその型態は、企業本位の収益計算の形式をのこしながらその本性をかえ、國民經濟全體の蓄積をたかめ、労働者全員の水準をたかめる社會主義競争に奉仕する經濟計算の形式をしだいにつけくわえ、新しい機能をもってきたといえよう。

## II ホズラスチョートについて 2つの見方

以上のようなホズラスチョート制度の理解にあたって2つの型の意見がしばしば見られている。

その1つは、この制度は國家資本主義またそのようなものであるという見方である。

他の1つは、この制度は技術的にもまったく社會主義の生みだしたものであり、収益とか計算とかはたいした意義をもたぬという見方である。

### (1) 國家資本主義という見方について

第1の國家資本主義だという見方はつぎの點でむりがあるようである。

(a) 國家資本主義はかつてネップの初期に見られた利權企業についていわれた。——これはどんな特殊な型態をもつていようと、2つの階級、すなわち生産手段を所有し搾取する資本家階級と搾取される労働者階級がいなければならない。ところがソ同盟の國家企業には、2つの階級でなく、1つの階級、すなわち生産手段を共有する、搾取されていない労働者階級しかいない。ホズラスチョートは、労働者の共有である國有財産の個々の部分の管理方法である。

(b) このために企業を管理するものは、資本家の代理人でなく、労働者階級の代表者である。ソ同盟では企業長は労働組合の同意をえて政府によって任命される。しかもどのような長、幹部も、労働者もしくはそれぞれの労働組合の意思に反して、自分のポストにとどまることはできない。

これらの事情は、ソ同盟の企業内の秩序をすつかりかえていっている。ソ同盟の企業には資本主義社會の企業のような、スタッフ、ラインのシステムで労働者を監視する組織、職制は存在しない。企業、工場では、労働者によって選出される工場委員會が、企業長、管理部の活動を點檢し指導する。そして生産の各段階ごとに、各段階労働者の生産會議があり、これが各段階ごとに企業長、管理部のしごとを點檢し、指導する。この集團的指導のうえに、企業長以下各段階の責任者が單獨責任によって自主的に行動する。決定は全労働者の集團によって、行動は

單獨責任によっておこなわれることが、ソ同盟企業の管理原則である。失業がないこととともに、労働者を監視する職制がないことは、資本家企業とくらべてその大きな特徴の1つである。

(c) 以上の点から、資本家企業の推進力が利潤であり搾取であるのとちがってソ同盟企業の推進力は、労働者が資本家のためでなく、自分と自分の階級の利益のためにはたらくことにある。

搾取がないということは、労働の成果が自分と自分の階級に歸属するからである。企業で賃銀額以上にえられるもの、つまり収益は、自分をふくめた全労働者の収益であり、その損失はやはり自分をふくめた全労働者の損失である。収益の大部分は、労働者の共同の利益のために産業の発展のために、つまり全労働者の生活状態の改善にむけられているからである。戦後すでに6回にわたる小賣物價の引下げが、賃銀の引下も失業ももたらしでないのはなによりもその證明である。

もちろんこのばあい、國家機關に残りがちな官僚主義を無視できない。だが官僚主義の残りは、企業が資本家のためにはたらくこととは問題がことなる。官僚主義は排撃すべきものである。だがそれがあからといつても、企業が労働者階級全體のためにはたらいっていることは、いささかもかわらない。官僚主義はウクライドではない。

(d) さいごに、ホズラスチョートは、ソ同盟國家が資本家企業とおなじような意味で利潤を追及せざるをえないのだ、という考えはまちがっているようにおもえる。

「もしそれが正しいとすれば、なぜわが國では、もつとも収益性にとむ輕工業を、往々収益があまりあがらず、時としてまったく収益のあがらない重工業に優先して、全力をあげて發展させないのか、理解できない。

もしそれが正しいとすれば、なぜわが國では、労働者の労働が『しかるべき効果』をあげていない一連の重工業企業を閉鎖しないのか、そして労働者の労働がおそらく『より大きな効果』をあげうる無條件に収益のある輕工業の新しい企業を開設しないのか理解できない。

もしそれが正しいとすれば、なぜわが國では、諸生産部門間の労働配分の『比率』を規制するという價値法則にしたがって、國民經濟にひじょうに必要ではあるが、あまり収益をあげていない企業から、もつと収益にとんだ企業に労働者をうつさないのか理解できない。』<sup>4)</sup>

(2) もう1つの見方について

第2の見方、この制度は技術的にも社會主義がうみだ

したものであり、収益は問題でなく、國家計畫がすべてだという考えは、つぎの點でむりがある。

(a) ホズラスチョートは、原價、價格、利潤という問題を無視したら成立しない。貨幣型態での蓄積を無視したらホズラスチョートは意味がない。とくに生産手段は商品でないにもかかわらず、原價、價格の計算をおこなっている。またこれを考えねば企業は活動できず、國家計畫は實行もできないという状態である。ところが原價、價格、利潤という問題は、とくに資本家企業で問題にされることである。

(b) つぎにホズラスチョートは、資本家企業で發達した會計技術をつかいそれを改造している。それなくしては運営できない。これははっきりした事實である。そればかりでない。労働組織にしてもテーラー・システムをとりいれ、作業時間研究やら動作研究、標準労働量をはじめ、その他もつともすすんだ經營技術を、むしろ積極的にとりいれている。それなくしてはホズラスチョートは存在する意義をうしなってしまうであらう。ホズラスチョートは、労働生産性をたかめることによって収益をあげることを直接の課題としているからである。

(c) さいごにホズラスチョートが収益を輕視しているという見方はまちがいである。個々の企業や生産部門の収益がなければ産業の發展は夢である。ソ同盟ではどのような建設計畫、大自然改造計畫をやるときでも、もちろん日々の生産活動についても、収益性は第1に考えられ、計畫されていることである。國民經濟の計畫化は生産の収益性を一掃してはいない。

「事態はまったくその逆である。収益性を個々の企業や個々の生産部門の見地からとりあげずに、また1年をくぎってとりあげずに、國民經濟全體の見地から、10年ないし15年をくぎってとりあげるならば(こうするのが問題の唯一の正しいとりあつかい方であらう)、個々の企業や個々の生産部門の一時的で恒久的でない収益性などというものは、國民經濟の計畫的發展の法則の作用と、國民經濟の計畫化とがわれわれにあたえるところの(國民經濟を破壊し、巨大な物質的損害を社會にあたえる周期的經濟恐慌からわれわれをすくい、高いテンポで國民經濟が成長するのをわれわれに保障することによって)永續的で恒久的な高度の型態の収益性とは比較にならない。』<sup>5)</sup>

収益性は資本家企業のようにとはとりあげられていない。社會主義企業には最大限の利潤も平均利潤も必要でなく、最低限の利潤に満足できるし、またときとしては、まっ

4) スターリン、「ソ同盟における社會主義の經濟的諸問題」邦譯新時代社刊 28 p.

5) 同上 29 p.

たく利潤なしにもすませう。だがそうかといって個々の企業や部門の収益がたかまらねば、社會の發展はありえない。ただしその収益性は、商人的に、目前の見地からでなく、長期にわたる國民經濟全體の見地からとりあげられているのである。

### III ホズラスチョート制採用の必然性とその利用

それでは、ホズラスチョート制が國家資本主義的なものではないにもかかわらず、原價、價格、収益を問題にし、資本家企業の技術を積極的にとり入れる理由はどこにあるだろうか？ 問題ははっきりとごまかしなしに答えられねばならない。

(1) 第1に、ソ同盟での社會主義が計算と管理にあたって、商品、貨幣を問題とせざるをえないのは、外國貿易のことは一まず措くとしても社會主義社會における農民の存在、生産物のコルホーズ的、集團的所有の存在からである。コルホーズ農民は、自己の生産物を、都市でつくられた消費物資と商品型態による交換なしには手ばなしえない。そのためにソ同盟では消費物資は商品として生産され、販賣される。したがって労働者は、自己の労働とひきかえに貨幣をうけとり、この商品を買はねばならない。そのために投じた労働の價值計算が必要である。そして企業は労働者の集團であり、個々の労働者と農民の關係からうまれる商品交換の法則は、企業に適用されざるをえない。こうしたことから企業の計算と管理は、貨幣でおこなわねばならない。また商品でない生産手段についても、それにふくまれる労働を計算するため、商品の外被をあたえたとりあつかいが必要になる。農民の存在から、消費物資が商品であるということから、つまり労働者と農民が商品交換を通じて結合しているという現在の勞農同盟の段階から、計算と管理をホズラスチョートという特殊な型態で處理せねばならぬ必然性がうまれる。これは人間の意思にかかわりのない必然性であり、法則である。

(2) 第2に、原價、價格の問題ばかりでなく、資本家企業の會計、經營技術の利用は、さきにも述べたように、資本家および古い資本家につかえた技術者の利用から、労働者によるその技術の習得にすすんだのである。これについてはレーニンがつぎのようにいっている。

「ブルジョアジーが封建制度をうちたおしそれにとってかわったとき、かれらは……管理のために他階級である封建的階級からの出身者をとった。それ以外にどこからもとってくるところはなかったのだ。まじめに事實をよく見なければならぬ。ブルジョアジーは先行する階級をとつたのだ。そこでいまやわれわれも、同じく先行

する階級の技能、知識をとり、これをしたがわせ、利用し、これらすべてを自己の階級のために使用しうる様にするという任務がある。……すべての國家はかつてあったことと同じようにすることが必要である。われわれがまったく空想主義と空文句の立場にたつことをのぞまないならば、つぎのようにならなければならない。われわれはいままで経験を考えなければならない。革命によってかちとられた憲法を確保しなければならぬ。だから管理のため、國家機構のために、われわれは、管理の技術を身につけ、國家および經濟にかんする経験をもつた人びとをもたねばならないし、このような人びとは、ただ先行階級の中からでなければならない<sup>6)</sup>。」

「勝利するためには、ふるいブルジョア社會のもっとも深い歴史全體を理解せねばならない。共產主義を建設するためには、技術も科學もとり、それらをもっとひろいはんに發展させねばならない、だがその技術や科學はブルジョアジーからとってくる以外に方法はない<sup>7)</sup>。」

「この點で資本主義のさいごのことばであるテーラー・システムは、資本主義のすべての進歩とおなじように、ブルジョア的搾取の洗煉された残忍性と、きわめてゆたかな科學的成果——作業のさいの機械的運動の分析や、よけいな不器用な運動の除去や、もっとも正しい作業方法の考案や、もっともすぐれた計算及び管理制度の採用というゆたかな科學的成果とを、そのなかにむすびつけている。ソヴェト共和國はこの領域での科學および技術の成果のうちの貴重なものはすべて、自分のものとしてとりいれなければならない。社會主義の實現いかんは、われわれがソヴェト政權とソヴェト管理組織とを資本主義の最新の進歩とをむすびつけることに成功するか否かによって、決定されるであらう。われわれは、ロシアでテーラー・システムの研究と教習をはじめ、その系統的な試験と應用とをはじめなければならない<sup>8)</sup>。」

このように、社會主義のもとで、労働生産性をたかめ、蓄積を増大するために、資本家企業が生みだした計算と管理の技術を利用することは、社會主義を建設するためにはどうしてもおこなわねばならぬことである。かつて、資本主義國家がつくられたときもおなじことがおこなわれた。それは人間の意志にかかわりのない客觀的な過程であり、歴史の變革の過程での法則である。その法則を認識しそれにもとづかねば社會主義の建設はできない。

6) ロシア共産黨第9回大會中央委員會報告、邦譯社會書房刊レーニン2卷選集 11分冊 188 p.

7) 同上 189 p.

8) 「社會主義政權當面の任務」邦譯社會書房刊レーニン2卷選集 9分冊 208 p.

このように、企業の労働の成果とその分配、すなわち社会主義での計算と管理を貨幣計算によっておこない、その具体的な計算や管理の技術を資本家企業の成果をとり入れることは、人間の意思にかかわりのない法則にもとづいている。

そしてこのような法則にもとづかねばならぬという事情は、社会主義にとってマイナスをもたらしていない。この事情はソ同盟の企業の関係者に生産を合理化し、正確に生産の規模を計算し、現状を正しくつかまえ、生産方法を改善し、原価を引き下げさせている。この事情はソ同盟の経済関係の幹部の成長をひじょうにはやめている。それはけつしてマイナスにはなっていない。

(3) さいごにこのような計算と管理についての法則の利用は一定の目的をもっている。それは、資本家企業の計算と管理が最大限の利潤をとりだすことに奉仕するのと同じである。このような計算と管理、特殊的にはホズラスチョートは、一定の目的に従属しなければならない。企業の目的はいうまでもなく国家計画の遂行である。計算と管理、特殊的にはホズラスチョートは国家計画に従属し、それを遂行する道具という地位をあたえられる。このことはつぎの2つの問題をあきらかにする。

その第1としては、企業の収益性、つまりホズラスチョート直接の課題が、五ヵ年計画の見地からとりあげられ、資本家企業のように、自己の企業の利益からとりあげられないことを説明する。五ヵ年計画はまず、全社会のたえず増大してゆく物質的文化的必要を、高度の技術に立脚する社会主義的生産のたえまない増進と改善によって、最大限に充足するように保障するという社会主義の基本的経済法則の要求と一致している。つぎに、国民経済のつりあいのとれた計画的発展の法則を正しく反映する。この2つの条件がまもられてつくられている。したがってホズラスチョートは以上の2つの法則が展開する過程を保障するものであり、この2つの法則を反映する国家計画の道具なのである。ここからして企業の収益性は、たんに個々の企業の目前の見地からでなく、長期

にわたる国民経済全体の見地からとりあげられることとならざるをえない。

第2には、この計算の管理の型態が、国家計画の諸段階、つまり社会主義建設の諸段階におうじた内容をもたざるをえないことを説明する。さきにもべた労働者統制から戦後の個人別計算にいたる展開は、計算と管理の型態が、社会主義建設の各段階に照應し、その時期の社会主義建設の主要な問題の解決に奉仕するものであることをしめしている。この展開は、革命直後の完全な資本家企業の管理技術の利用からはじまって、その本性をかえ、その型態をのこしながらも、しだいに新しいものをつけくわえてきている。

「このような特性は何によって説明されるか。問題は、われわれの社会条件のもとでは、経済的發展が變革のかたちをとらないで、漸次的な變化の形でおこなわれるところにある。このばあい古いものはいまなおさっぱりとなくなるのではなく、その型態だけをたもちながら、その本性を新しいものに照應するようにかえていき、また新しいものはいきなり古いものを絶滅してしまうのでなく、古いもののなかに浸透し、古いものの型態をこわさないで、それを新しいものの發展に利用しながら古いものの本性と機能をかえていくのである。商品だけでなくわが経済取引における貨幣やそれからまた銀行のばあいでも、同じことである。銀行は自分の古い機能を失い新しい機能をくわえつつあるが、古い型態はそのままで、これが社会主義制度によって利用されているのである。……わが國では、資本主義の古いカテゴリーは、主として型態や外觀のうえでのこっており、本質のうえでは、社会主義的国民経済の發展の諸要求に照應して、根本的に變化している<sup>9)</sup>。」

ホズラスチョートは以上のような意味で、形式的にはブルジョア的内容的には社会主義なものと理解されるべきであらう。  
(1953・6・30)

9) スターリン前掲書 60 p.